

市内景気動向調査結果

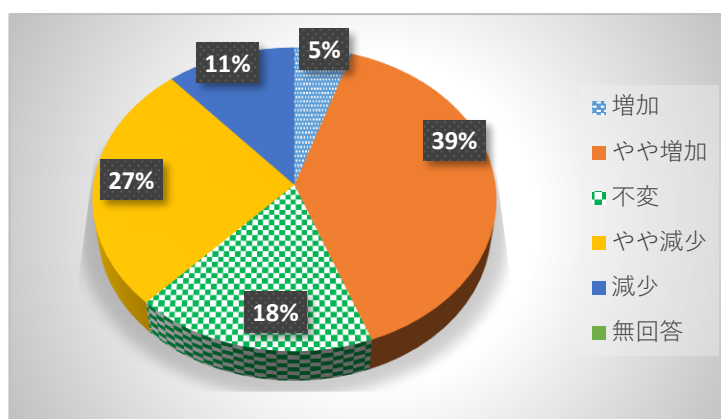
この調査は、第3四半期（令和5年10月から12月）と前年同期（3ヶ月）の比較を、当商工会員より回答いただいたものです。

| 有効回答数 | 建設業 | 製造業 | 運輸業 | 卸小売業 | サービス業 | その他 |
|-------|-----|-----|-----|------|-------|-----|
| 79 | 18 | 8 | 5 | 19 | 25 | 4 |

※その他は、回答数が少なかった不動産業、飲食業

1. 売上高はどう変化したか。

| | |
|------|----|
| 増加 | 4 |
| やや増加 | 31 |
| 不変 | 14 |
| やや減少 | 21 |
| 減少 | 9 |
| 無回答 | 0 |
| 合計 | 79 |

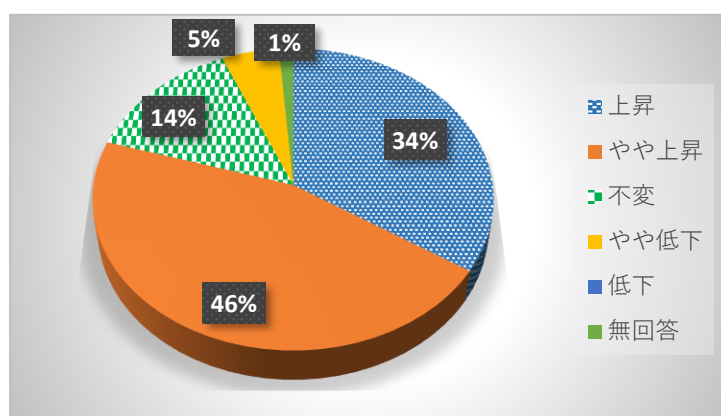


【コメント】

- 増加・やや増加が44.3%、不変が17.7%、やや減少・減少が38.0%であった。前年同期では、増加・やや増加が39.4%、不変が26.3%、やや減少・減少が34.3%であった。
- 増加・やや増加の業種別割合は、運輸業が80.0%、サービス業が56.0%、製造業が50.0%、卸小売業が36.8%、建設業が27.8%であった。
- やや減少・減少の業種別割合は、建設業が50.0%、卸小売業が42.1%、サービス業が32.0%、製造業が25.0%、運輸業が20.0%であった。
- 建設業では、第2四半期に続き、ボールパーク関連工事がなくなった影響が大きくでている。
- 売上増加の業種では、サービス業が目立って増加している。前年同期は44.4%、第2四半期では36.7%であった。

2. 仕入単価はどう変化したか。

| | |
|------|----|
| 上昇 | 27 |
| やや上昇 | 36 |
| 不変 | 11 |
| やや低下 | 4 |
| 低下 | 0 |
| 無回答 | 1 |
| 合計 | 79 |



【コメント】

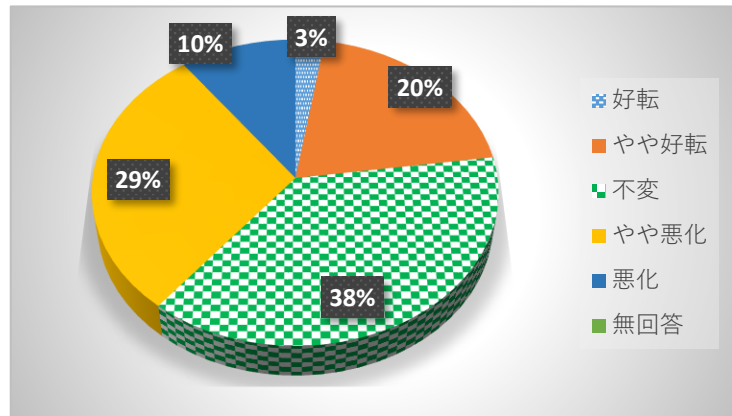
- 上昇・やや上昇が79.7%、不変が13.9%、やや低下・低下が5.1%であった。前年同期では、上昇・やや上昇が80.8%、不変が14.1%、やや低下・低下が

4.0%であった。

- 上昇・やや上昇の業種別割合は、建設業が88.9%、運送業が80.0%、サービス業が76.0%、製造業が75.0%、卸小売業が73.7%であった。
- 依然として、エネルギー価格の高騰、円安等の要因により物価上昇が続いている。

3. 採算について

| | |
|------|----|
| 好転 | 2 |
| やや好転 | 16 |
| 不変 | 30 |
| やや悪化 | 23 |
| 悪化 | 8 |
| 無回答 | 0 |
| 合計 | 79 |

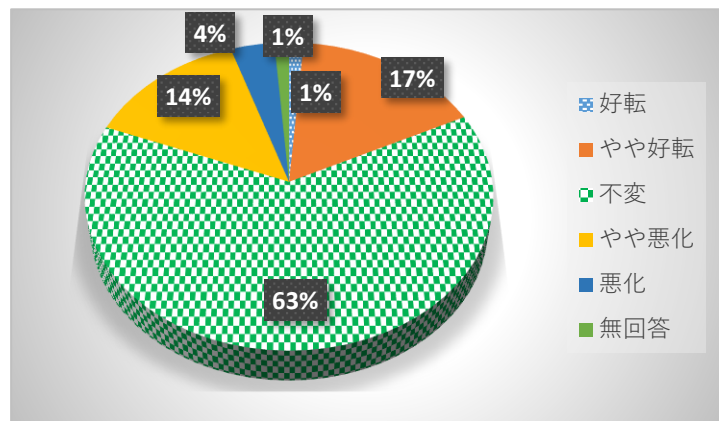


【コメント】

- 好転・やや好転が22.8%、不変が38.0%、やや悪化・悪化が39.2%であった。前年同期の好転・やや好転が23.2%、不変が33.3%、やや悪化・悪化が43.4%であった。
- やや悪化・悪化の業種別割合は、卸小売業が47.4%、製造業が50.0%、建設業が27.8%、サービス業が36.0%、運輸業が20.0%であった。
- 原材料価格等の上昇が長期間続いており、価格転嫁できない事業所の状況は悪化している。

4. 資金繰りについて

| | |
|------|----|
| 好転 | 1 |
| やや好転 | 13 |
| 不変 | 50 |
| やや悪化 | 11 |
| 悪化 | 3 |
| 無回答 | 1 |
| 合計 | 79 |

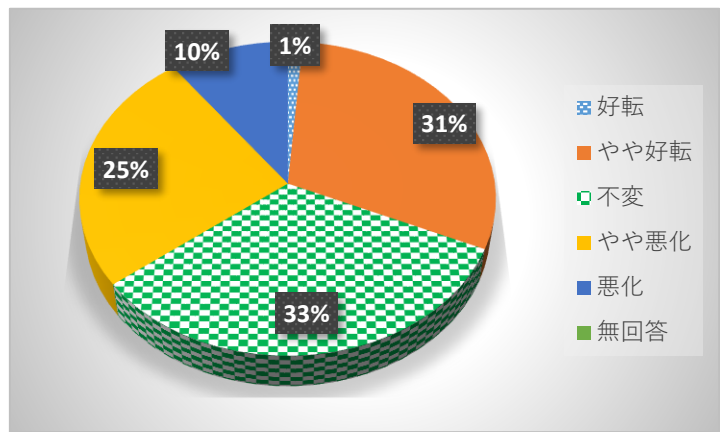


【コメント】

- 好転・やや好転は17.7%、不変が63.3%、やや悪化・悪化が17.7%であった。前年同期の好転・やや好転が12.1%、不変が65.7%、やや悪化・悪化が22.2%であった。
- 資金繰り悪化の割合が高い業種では、卸小売業が21.1%、サービス業が20.0%であった。
- 資金繰りについては、前年同期と比べて多少改善されたが、予断を許さない状況に変わりはない。

5. 業況について

| | |
|------|----|
| 好転 | 1 |
| やや好転 | 24 |
| 不変 | 26 |
| やや悪化 | 20 |
| 悪化 | 8 |
| 無回答 | 0 |
| 合計 | 79 |

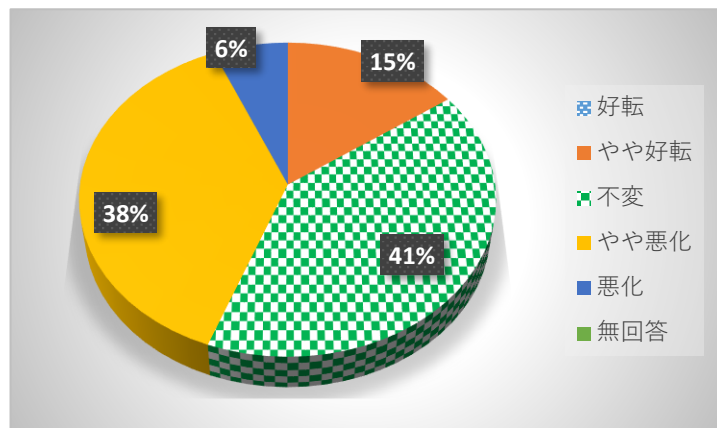


【コメント】

- 好転・やや好転は31.6%、不変が32.9%、やや悪化・悪化が35.4%であった。前年同期は、好転・やや好転が30.3%、不変が33.3%、やや悪化・悪化が35.4%であった。
- 業況悪化の割合が高い業種では、卸小売業が42.1%、建設業が38.9%、サービス業が32.0%、製造業が25.0%、運輸業が20.0%であった。
- 業況については、前年同期とほぼ同様の状況となっている。

6. 今後3ヶ月間の業況について

| | |
|------|----|
| 好転 | 0 |
| やや好転 | 12 |
| 不変 | 32 |
| やや悪化 | 30 |
| 悪化 | 5 |
| 無回答 | 0 |
| 合計 | 79 |



【コメント】

- 好転・やや好転が15.2%、不変が40.5%、やや悪化・悪化が44.3%で、前年同期では、好転・やや好転が16.2%、不変が44.4%、やや悪化・悪化が39.4%であった。
- 今後3ヶ月間の業況予想では、やや悪化・悪化が前年同期に比べて上昇し、物価高等の状況が改善されないため、不透明感が増している。

■回答事業所からのコメント

【建設業】

- 仕事はあるが人手不足のため、業況が伸び悩んでいます。
- 受注が減少したこと。資材、人件費の高騰で工事着工が延びている。
- 物価高騰および受注量減少で多少悪化しているが、この業界はどの会社も想定していること。
- 仕入単価が高騰している分を、作業人数が少なくなるよう工夫しながら耐えています。その分今まで働いて貰っていた人たちの収入は減っているのではないかと心配になります。

- ①シーズンのある仕事なので冬場の業況は良くないです。②原材料の高騰は年間を通じて感じています。
- 仕事量の減少。
- ボールパーク関連工事がほぼ完了したため売上減。ボールパークの仕事を優先するため、他の開発局、道などの仕事をストップしたため、新たな営業展開をしなければと思っている。
- 人手不足により受注増が難しくなっている。
- 資材の高騰や物価上昇により消費者の購買意欲の低下が感じられます。
- 原材料価格が高騰しているが、その分を価格転嫁できないため業績が悪化している。

【製造業】

- 生産量／売上額は変動がなく横ばいで推移。更なる原材料、エネルギー光熱費の高騰があり、製造原価に影響を与えている。受託料は少し上昇傾向を示している。
- ①原材料が高騰しているが、その分を価格転嫁できないため業績が悪化している。②ウクライナ・中東情勢による物資不足。③経済成長が見込めない。
- 好調に若い人材の確保ができています。育成にも注力し恒久的に事業と技術が続くよう努めております。
- 取引先の優秀な営業マン3名が退職のため売上減。特に12月は、これまでに経験したことがないリフォーム物件減。
- インフルエンザやコロナウイルス感染者は増加傾向にあるが、売上への影響はあまり見られない。冬は暖房や除雪等の費用が発生するので、やや悪化する可能性があります。
- 冬期間は雪の影響により廃棄物の回収が思うように進まないため、業況はやや悪化する。
- 原材料の高騰、エネルギー単価増、売上減。

【運輸業】

- 軽油単価は高止まりしており、来年4月以降の状況が見通せない。
- 観光客は増加しているが、燃料高騰により収入には反映されていない。
- コロナの影響でお客様は減少。車の仕事がなくガソリンが高いので不安です。12月1日より料金を上げさせていただき、1月より期待したいです。
- し尿の処理単価の値上げ、Fビレッジによるごみ収集量増加のため。
- 高速代、燃料費の高騰のためコスト増になっている。

【卸小売業】

- 小中学校中心に子供のインフルエンザが流行していて、新型コロナも少しずつ増えて、除菌消臭商品が売れています。1月以降も期待しています。各種イベントが開催されて子供用催事も少しずつ増えて、ゲーム売上も上がってきています。
- コロナ明けとなり特需減少による前年割れ。物価高、燃料高の影響から来店回数ダウンに加え、買い上げ点数ダウンもある。2019年並の売上のため、コロナ禍前の売上に戻った。しかし人件費UP、光熱費UPが影響し営業利益に影響が出ている。
- POSレジを導入して効率的になりました。
- 有用菌を活用した効能的な有機肥料（粉末・液体肥の研究）の販売に努めることによって、新年度以降、経営の安定化が望まれる。
- コロナ5類移行で国内外の観光客増により、やや好転しております。
- 価格改定による売上高の増加でやや採算は良くなっている。
- 仕入単価の上昇分を売価に転嫁できている。
- ビッグモーター事件以来ずっと不調です。
- 業種的に主婦層がターゲットなので、家にいる時間が長いと売上が上がりやすく、家にいる時間が短いと売上が下がりやすいと考えられる。北海道は冬に家にいる時間が多くなるので、ネット販売にも力を入れていきたい。

【サービス業】

- 冬期間は入院入所の方がいるため、業況は不振となります。
- 11月に事業を承継したばかりで全年との比較は難しいのですが、原材料等の高騰により仕入金額は増加傾向にあります。商品によっては値上げなどをして対応しています。そのため著しく採算が悪化している印象はありませんが、見通しとしては厳しいものを感じます。
- 業況として10月～12月は一番の繁忙期なので様々な販促活動を行い、結果に繋がった。1月～3月は逆に閑散期に入るので辛抱の時期だと思う。
- 1～3月の公共事業が少ないため。
- 今年度は第4四半期に売上集中。業況としては、第2四半期から一定の商談件数が継続している。
- 仕入などの物価上昇分を料金に転嫁できないので、客数が増えても採算が合わない。
- 仕入原価の高騰によるもの。
- 来場者は382人増、料金の値上げで収入増、物価高で経費増、利益は減少、現預金は少し増加。
- 利用客はコロナ前とほぼ変わらない水準まで増加した。原材料や燃料費は高止まりのまま経費増加の要因。
- 光熱費の高騰により2年前から運営が厳しい状況。
- 冬期間での大型機器や暖房用機器による燃料費、消耗品、修繕費等が計画予算より増加している影響から、経費率が高まり収支状況がやや悪化する想定である。
- 前年はコロナの影響を受けた分、今年度は若干業績の改善が見られた。
- 売上の増加。仕入単価はほぼ同じ。今後3ヵ月間は売上は半分くらいになると思われる。
- 全体的な価格の高騰とコロナ系対策の撤回により社会保障はなくなったが、行動制限は変わらないため実質的な損害は増えている。
- 今後3か月については、公共工事が関係が少ないので稼働数が減る。ボールパーク関連と地域は違うが、ラピダス需要をいかに捉えることができるかが鍵となる。

【その他】

- 原材料高騰による利益圧迫分は多少の値上げによって影響は抑えられたが、ご来店数の絶対数が低下しており今後の期待は薄い。
- 2022年の後半より不動産市場が低迷しており、その前より上がり続けていた地価が落ち着いてきましたが、建築費や関連費の高騰で新築が建てられないため流動量が少なく相対的に悪化しています。土地が広く分筆できないのも大きな要因です。
- 生活用品全ての価格高騰で、外食までは届かないため来店数が少ない。